

平成 28 年度 社会科巡検報告

1. 期日 平成 28 年 8 月 18 日 (木) ~8 月 19 日 (金)
2. 場所
大館市中央公民館,旧花岡駅・鉾山事務所跡周辺,中山寮跡・滝ノ沢第二ダム,日中不再戦友好碑,共楽館広場,共楽館跡碑,七ツ館坑跡と七ツ館弔魂碑,花岡川,華人死没者追善供養等・信正寺,中国殉難烈士慰霊之碑,花岡平和祈念館
3. 日程
8 月 18 日 (木)
~10:30 大館市中央公民館に集合
10:40~12:40 研究報告,守る会の取り組み
12:40~13:30 昼食
13:30~16:30 花岡事件フィールドワーク
(旧花岡駅・鉾山事務所跡周辺,中山寮跡・滝ノ沢第二ダム,日中不再戦友好碑,共楽館広場,共楽館跡碑,七ツ館坑跡と七ツ館弔魂碑,花岡川,華人死没者追善供養等・信正寺,中国殉難烈士慰霊之碑,花岡平和祈念館)
18:30~20:30 夕食・交流会

8 月 19 日 (金)
~9:00 朝食
9:00~10:00 ワークショップ
報告①:花岡事件の和解
報告②:「在日殉難烈士・勞工記念館」について
10:10~12:00 グループ検討(授業構想)
主題「花岡事件を次世代にどう伝えるか」
12:00~13:00 昼食
13:00~14:00 グループ発表
14:00~14:20 講評
14:20~14:30 閉会のことば
14:30~ 終了 解散

1 参加者

教員: 外池智

院生: 菅原郁也 野坂奨 金 拓郎

学部生: 遠藤さつき 大久保雄登 菅原匠 高橋遊 畠山彩音 皆川悠太 佐藤美月

阿部令 菅原悠人 沼田一将 竹内恭平 斎藤志帆子 篠田恭介

- 花岡事件とは

太平洋戦争中に、3回にわたり、986人の中国人が強制連行され、そのうち419人が故郷に帰ることなく亡くなられた事件である。

過酷な労働、極めて不十分な食料、劣悪な衣服寝具、耐え難い暴行と虐待が強制連行された人々の尊厳を奪い、死をもたらした。

2016年夏、他大学と連携し秋田大学社会科教育学研究室はこの花岡事件についてフィールドワーク及び授業づくりを行った。

- フィールドワーク

1. 中山寮跡・日中不再戦友好碑

中山寮跡は現在ダム工事によりその姿を見ることは叶わない。しかし、中山寮が存在していたことを後世の人々が知ることが出来るよう、民間の募金により日中不再戦友好碑が中山寮傍に建立された。

2. 共楽館広場、共楽館跡碑

共楽館はもともと娯楽集会施設として利用されていたが、6月30日中国人労働者が一斉蜂起した後、捕縛され、この共楽館前の庭に繋がれ、拷問、取り調べを受けた。現在、共楽館は取り壊され、共楽館跡碑が建立された。

3. 花岡川

中国人労働者が改修工事を行った。先に述べた中山寮・共楽館は現存していないため、花岡川が現在も見ることが出来る当時の現存資料である。

4. 華人死没者追善供養塔

1949年に鹿島組によって建てられた供養塔である。信正寺は中国人労働者を慰霊するための納骨堂を要請していたが、実際に作られたのはコンクリート製の納骨堂とは言い難いものだった。

5. 七ツ館弔魂碑

崩落事故により無くなった中国・朝鮮人労働者を弔うために建てられた。この崩落事故により花岡川の工事が必要となった。

6. 花岡平和祈念館

現存する「花岡事件」についての資料が多数展示されている。事件当時の物だけではなく、現在に至るまでの歴史を知ることが出来る資料も展示されている。

7. 中国人殉難烈士慰霊ノ碑

殉難中国人429名の氏名が刻まれている。1968年から慰霊事業が始まり現在は大館市が引き継いでいる。

- 授業づくり：「花岡事件」をどう伝えるか

フィールドワークを踏まえ、他大学合同 8 班編成で授業づくりを行った。その中には中国人留学生も参加し、日中両国の立場や考えを交えながら、ワークを行った。

日本の学生たちは焦点を「本当の和解とは何か」という点と「後世に伝えるための方法」に当てた班が目立った。

中国人留学生は「労働者の置かれた立場」と「戦後の日本側の取り組み」について着目していた。時代背景を考えることに重点を置いた班が目立った。

ともに共通している点は、「この事件を後世に伝える意義は何なのか」ということについて議論されていたことである。各班一つの目的を決め、その目的を達成するための授業展開を考えられていたので、多種多様なアプローチに触れることが出来た。



図 1 花岡川